

みどりの杜俳句会



節分会玉投げ鬼の逃げ行けり	梅沢喜久江
山際の金柑小粒の実の多し	西 ツル
日の当たる畑隅落の蔓出づる	田村 好子
金柑の下枝に粒大きかり	鈴木 啓子
蠟梅の名残かがやき香り良し	梅澤 時江
暗雲の去りて積もらぬ春の雪	吉田 愛子
数分けて年の豆撒く内と外	小宮 勉
中天の星寄り添いて寒の月	山田 美子
節分の福拾い合う雨の宮	土屋 厚子
蠟梅の錠び香る寺領かな	初雁 功子

人権シリーズ

【マイクロアグレッション】

(423)

最近、私が知った言葉に「マイクロアグレッション」という言葉があります。

直訳すると「些細な攻撃」です。これは、無意識の偏見や思い込み、無理解から生まれる相手を傷つけるような言動です。

例を挙げると、生まれも育ちも日本であるミックスルーツの人に対して、「日本語がお上手ですね」など、特定の属性を持つ人への差別的な言動や、「見た目と違つて、まじめで、しっかりしているね」など、見ただ目で判断して相手を傷つけてしまうことです。

「マイクロアグレッション」は、発言した本人には特別悪意があるわけではなく、否定的な言動をしているという意識はありません。

そのため、その言動を注意しても「そんなつもりはなかった」、「それくらいのこと」と、理解されなかったり、反発を招くことも少なくありません。誰もがつい言うってしまうがちなことで、ハラスメントになってしまうのです。

どこか閉塞感があり、個人を攻撃してしまいがちな今の世の中、何ごとにも過敏に反応してしまいがちで、だんだんと言葉を発することが少なくなってしまうわなのように、相手に対し、敬意や尊敬の意を表すリスクの気持ちや、思いやりの心を持つて接することが大事なのではないのでしょうか。皆が優しく、思いやる心を持ち、そして心豊かで大らかな世の中になることを願います。

東秩父村教育委員 鈴木 郭司

アートの世界

梅林を少し下から見て梅の木は生命力と、根元を通して見える筑波山を描いています。

「紫峰」は筑波山が夕暮れの時に頂上付近が紫色に染まることから、その光景を象徴する名前として地元では使われているといわれています。

この作品は構図と彫に特徴があつて、縦横比3:1という縦長の構図と、視点を下にとつて、仰ぎ見るように描くことによつて、梅の生命力と、それに対する敬意を表現し、梅の幹の並びによつて奥行きを得て、その先に筑波山を配置することによつて、「郷土に対する作者の愛着」が表現されている点が評価されました。そこで、地域の活性化を担う商工会の賞としてふさわしいと、東秩父村商工会長賞に選定されたものです。(版画フォーラム事務局)

東秩父村商工会長賞
「紫峰遠望 Ⅲ」 小倉眞(茨木県)

